目標があれば、好き嫌いを越えられる

猛暑の夏、豪雨の夏。自然の厳しさを実感させられる日々が過ぎ去り、ようやく秋の気配が漂い始めました。みなさん、お変わりありませんか?

私は、先週末、北海道ニセコ・倶知安町に出掛けていました。私の主宰する『青年塾』のサマーセミナーをニセコで開催したからです。ニセコは、国際的なスキー場として有名です。札幌、新千歳空港のどちらからも二時間の立地条件が、世界的に評価されて、ニセコには、年間四十万人近い外国人観光客が押し寄せてきます。一番多いのはオーストラリア人で、ほぼ半分を占めています。

ニセコ・倶知安町の観光開発は、なかなか目を見張るものがありました。多くの取り組みは、民間が主導しています。しかも推進組織の役員の半分近くを外国人が占めているのも、なかなかユニークでした。

目からウロコの落ちた一言

そのサマーセミナーで、今後、『夢甲斐塾』を運営していく上でまことに適切で、良い言葉に出会いました。それは、観光開発の先頭に立つ倶知安観光協会の会長である本田　悟さんの話の中に出てきました。本田さんは、もともと、四十歳まで日産自動車に勤務していた人です。

「目標が定まれば、また、目標に対する合意が成り立てば、お互いの好き嫌いといった感情の違いを乗り越えることができる」。それが本田さんの言葉でした。裏返すならば、目指す目標が明確でないと、お互いの好き嫌いといった感情が大きな問題になるということです。みんなが同じ目標を見ていたら、お互いは目標達成の協力者になり得るが、目標がないと、お互い同士を見つめ合うことになります。お互い同士ばかりを見ていると、好きな人、気の合う人、嫌いな人、気の合わない人といった、お互いの違いばかりが気になり始めるという意味です。

目標が決まれば、お互いが協力者に

人間が集まれば、必ず好きな人、嫌いな人、気の合う人、気の合わない人がいるのは、当然のことです。それは人間の本性といったものでしょう。だから、好き嫌いの感情を持つことが悪いことだと決め付けると、無理が生じます。大切なことは、お互いが好き嫌いの感情を持たないようにすることではなく、好き嫌いの感情を越えることができる目標を持つようにすることです。

その観点から、『夢甲斐塾』の進め方を見ると、大きな反省点があります。それは、みんなで取り組むべき目標が不明確なことです。例えば、十四期生諸君が、みんなで力を合わせなければとても達成できないような高い目標をはたして持っているでしょうか?

★裏に続いています

従来の進め方を見ていると、いきなりからいくつかのチームに分かれて、少人数で、それぞれがテーマを決めて取り組むことまではできるようになりました。しかし、みんなで力を合わせなければならない目標に挑戦することは、あまりなかったように記憶します。そのために、ともすれば、チーム間での不協和音、全体としてのまとまりのなさが目立つ傾向にありました。

みんなでめざす共通の目標を、まず決めよう

十四期生諸君に、これから研修を始めるに当たり、是非お願いしたいことは、いきなり個々に自分のやりたいテーマのチームに分かれてしまうのではなく、全員で取り組む共通の目標をまず定めることです。「この一年、是非、みんなが力を合わせてめざすべき目標を明確にしよう」と話し合ってほしいのです。

仮に、「今年は山梨の観光百年計画をまとめよう。そしてそれを、一年後、県下の観光関係のあらゆる人たちに集まってもらって発表して、世に問おうではないか」と決めたとしましょう。さあ大変です。みんなで手分けして、様々な作業に取り掛からなければ、とても専門家に耳を傾けてもらえるような発表はできません。もちろん、その過程においても、様々な意見の相違はあるでしょう。しかし、目標は明確ですから、妥協し、譲り合うこともできるのです。目標達成するために共通の思いがあれば、好き嫌いといった感情は乗り越えることができるはずです。

諸君は、『夢甲斐塾』の未来を左右する転換点に

その意味からすると、十四期生は、『夢甲斐塾』の将来を左右する極めて大切な転換点に立っているとも言えます。十四期生諸君によって、『夢甲斐塾』挙げて取り組む大きな目標を定めることができたとしたら、今までとは大きく異なる、ダイナミックな学びができるようになるかもしれません。あるいは、まことにエキサイティングな内容の学びの場に生まれ変わるかもしれません。

「〝出る杭を育てる〟のが、『夢甲斐塾』の建塾の思いであるならば、この際、思い切って、全員で出る杭になろうではないか。そして、新しい時代の山梨をつくるために、みんなで力を合わせて、大胆な行動を開始しようではないか」と、熱く語り合ってほしいのです。そして次回の例会では、その結論をみなさんから私に報告してほしいと思います。

みなさんの大胆な発想力と実行力によって、是非とも、みんなで取り組む共通目標を最初に明確にしましょう。

理念を失うと、求心力がなくなる

松下政経塾に勤務していた時代、塾生の一体感に欠けることに、心を痛めた時期がありました。その時に出会った言葉が、目からウロコでした。北海道・北洋銀行の頭取だった武井正直さんが、「組織は、理念を失うと、求心力を失う」の一言でした。「何のために」という理念がないと、お互いの欠点ばかりが目について、組織は一体になれないのです。今年を、『夢甲斐塾生まれ変わり元年』にしようではありませんか。

『夢甲斐塾』塾長　上甲　晃